

『聖なる欲望に生きる』 ルカの福音書12章15～21節 2018.8.26 聖日礼拝説教より

『…神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。だから、あすのための心配は無用です…』 マタイの福音書 6章 33～34 節

第10戒「欲しがらな」とは、欲望自体ではなく内容が問題とされる！

❶**不健全な欲望の結末(ヤコブ 1:14～15)**…『人は自分の欲に誘惑され…欲がはらむと罪を生み、罪が熟すると死を生み…』。普通の欲も思い詰めれば妬みになり、貪りに！ダビデは人妻を奪い(Ⅱサムエル11章)、アカンは聖絶のものから盗み(ヨシュア7章)、ユダは財布から盗んだ(ヨハネ 12:6)。「欲がはらんで罪を生み、罪が熟して死を生む」とは、卵が孵化する様子。不健全な思いを抱え、あたためていれば罪が生まれ、その罪で死に至る。「死」とは「関係を壊すこと」。愛し愛される(夫婦・親子・兄弟…)関係を壊し、人を本能むき出しの獣へ落とす！神は「欲しがらな」と命じて、願望が健全で、本当に必要で永遠の価値があるかと問うが、人には、その不健全な欲を正す力はない。

❷**神への信頼と感謝の人生(ルカ 12:15～21)**…ルカ 12 章の「愚かな金持ち」は、「わが魂よ、これだけあれば安心！食べて飲んで楽しめ」と喜びつつ、自分が翌朝召されることを知らなかった！その「愚かさ」は第一に、関心が「この世のことだけ」だったこと！生涯の先にある「永遠の安息」をくださる神を求めないことが最も愚か！第二に、彼の頭には「自分のこと」しかなかった。金も財産も命も、全て神からのもの！その神への信頼、感謝がない人生は、結局、傲慢で、不満はあっても、思いやりも、分け合う心もない！主は言われる「空の鳥を養い、明日は枯れる野の花を美しく装われる天の父がおられる！だから明日の心配をするな」と。『私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置くように(Ⅰテモテ 6:17)』。『欲しがらな』との戒めは、今持っているものでガマンしろ…ではなく、あなたに必要な全てを与えて人生を導く「わたしを求めよ」という勧め！パウロは言う『私は…あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。私は、私を強くくださる方によって、どんなことでもできる(ピリピ 4:11～13)』と。

★**私たちが、本当にむさぼり求めるべきものは、この神の恵みの力！心から渴いて欲しがらべきは、魂を満たしてくださる神の愛、あらゆる汚れを聖める神の力！この世のものを欲しがらな！まず、あなたのために用意されている、天にある永遠の安息を求め、いただき、安心して世の欲望、誘惑の戦いに勝利を得よ！**